

ドナウ通信

No. 42

目次

新年を迎えるにあたって	糠沢 和夫	2
日本語スピーチコンテスト入賞者 大学の部 1位/2位 高校の部 1位/2位		4
補習校便り		8
補習校児童作文		9
青木 亮太/谷野 史織 /尾崎 雄人 大河内 薫子/園部 清子/鹿目 はるな		
リスト音楽院生コンサート	編集 秋山 忍	14
随想		
国旗、国歌法成立に想う	相馬 笙子	19
洪邦徒然	香川 良和	21
五歳の挑戦	盛田 常夫	25
掲示板		32

新年を迎えるにあたって

日本国大使 糠沢 和夫

納税者の皆さん、今年もお陰で私も年を越せるし、大使館でも無事御用納めにこぎつけられて幸せです。

一・日本ではリストラでお気の毒な人が増えて胸が痛みます。全く高校や大学を出てから四〇年も四五年も家族を養うのはそれだけで人間の一大仕事ですね。

リストラは頭から、といつも考えています。無能な経営者が、社長、会長、相談役と長く会社の禄を喰み続けているのは苦々しいかぎりです。しかし、声は会社の中（株主、従業員）から上げるしかないでしょう。それが上げられないで耐えに耐えてリストラに遭っても、それは自己責任のうちだ、という社会に入りつつある。

二・三島由紀夫が自死してから来年で三〇年になります。三島は自分の死に公的な意味（日本文化の伝統の防衛）を与えるのに成功しましたが、江

藤淳氏もっと自分の心情に忠実であろうとして自殺しました。基本的にイメージが洩れた状態に危機感をもつときに、死に親近感を持ち、「向こう側の人間」と対話を始めるようになるとは、しばしばあることです。一九六〇年安保のときには、江藤、石原、大江という三人はほぼ同一地点にいたのに、四〇年の時の移り変りは無情ですね。

三・今年の日本には奇怪なものに満ち充ちていました。神原川県警などは、ほとんど漫画で、何だかいくつかの映画をなぞっているような気がします。

本来なら聖なるもの、美しいものがあつたはずのところの内容が空っぽな、あるいはアグリーなものに置き換わってしまったらしい、という感想が自然に出てきます。ガマンをして地球をささえているアトラスのような指導者もいなくなりました。では、美しいもの、凜としたものはどこに逃げていったのか。嵐の来る方向に目をこらして強風にひるまないで立っている人はどこにいったか。それは政治

や経済ではなく、もっと人目につかないところにいるのだろう。

だからあまり美しいものがもういないところのフタを開けて、ダメダメだ、といつても仕方がない。もう蟬の脱ガラを見て空疎だ、虚ろだ、というのをやめよう。もっと気がつかないところにキラリと光るものがあるのに違いない。

四・大使館のスタッフ数人に協力してもらって、いま「一九五六 BUDA PEST」という本を翻訳しています。

三月中旬までには出るでしょう。一月五日（金）にブダペストで出版披露Partyが行われた本で、その翌週の月曜に翻訳を決意したものです。死刑を宣告され、また五〜一五年牢に入った人の問わず語り、それに現在と五六年当時の写真を付したものです。

ゲンツ大統領の訪日が今度の春にも実現しそうなので、それへの露払いのような本ですが、若い日本人に対する私のメッセージでもあります。五〇〇〇部出して、一〇〇〇部近くはタダであげる先があるので、四〇〇〇部で

コストを少しでも回収せねばなりません。だから買って読んで下さい。(ブダペスト預価三〇〇〇HUF、東京定価二〇〇〇円)

新年にはいよいよ日本語 ハンガリー語の中辞典の作業が始まります。できれば三〇年はもつでしょう。資金回収に五年ぐらいかかると思うけど、出来上がったら買って下さい。

五・最後に日本の経済に一言
よくなってきました。まだ、大病の後ですからヨロヨロしますが、もう大丈夫です。

あとはアメリカのバブル経済が軟着陸してくれば大体つつがなく二一世紀に入っていけるでしょう。日本経済を日本国内から見ると、大体今年は0.5~0.7%成長ぐらい、来年も1~1.3%ぐらいと思いますが、低成長下でも外部の投資家から見ると円資産への投資は今年はミラクルのように儲かりました。レートが約二割上り、かつ株価も上がっているのです、その相乗効果で本年初にくらべもう五割以上儲かっています。ハトが豆鉄砲の連

発を喰ったようなものです。日本への直投もふえてきて、対内・対外の比率が一〇年前の一五対一から四対一に近づきつつあります。

六・日本の論壇はグローバリゼーションの議論に忙しい。グローバリゼーションの大部分がアメリカ化だというのが反感のもとです。しかし、アメリカ的文化特徴がこれだけ売れているのは、皆がそれを愛しているからで、いやならほかのものを流行させるようにすればいいのでしょうか。

一方、シアトルWTOでもNGOがアメリカのお祭りをひっくり返してしまつた。そこには新しい潮がはつきり見える。グローバリゼーションも単純ではない。

ヨーロッパは良く判らない。ドイツが鍵だが、自分がどこに行きたいのか、まだ決めてないような気がする。シュレーダー氏も、カラオケで歌を決めていないうちに順番が来てしまつたような顔をしている。ドイツも日本と同じで、低姿勢が定姿勢になつたような感じもあるので、大声でものを云って

人が聞いてくれるまでもう少し間があるのだろう。その間、フランスと日本の間にはそれぞれの理由で経済的な親密感が強まっていくだろう。

とにかく外資の流入は日本社会の国際化に役立つだろう。たしかに古い良さの一部は失われるが、飛躍のモメンタムを得られることも多いだろう。未踏の山、未知の海に入ってみる覚悟で進まないダメだ。もう少しぐらい国際化しても、日本社会は十分に糠ミソ臭いですよ。心配はまだ大分先の話だと思う。

七・そういう訳で、安心して年越しソバをすすりながら紅白も見られるものと信じています。リストラされた人もあるので、家族揃って笑顔で新年を迎えられるだけでも本当に有難いものだと思うねば、と思います。

第七回

日本語スピーチコンテスト

一九九九年一月一日、日本大使館講堂において、大使館、国際交流基金ブダペスト事務所及び国際協力事業団ハンガリー駐在員事務所の共催により、第七回日本語スピーチコンテストが開催され、高校の部一〇名、大学の部七名の学生が出席して熱弁をふるいました。会場は二〇〇名以上の聴衆で埋められ、学生たちのスピーチに加え、日本語を学習している小学生たちによるアトラクションや昨年の優勝者による日本訪問の体験スピーチなども発表され、大盛況のうちに無事終了致しました。そのご報告の意味を込めて、ここに高校の部、大学の部、それぞれの一位と二位を獲得した出場者の原稿をご紹介しますと思います。

大学の部 一位

言葉なしの關係

コヴァーチ・エメシエ

五年前、ある飛行機がアメリカのフィラデルフィアの方へ出発しました。この飛行機には、一五才の女の子も座っていました。この子は英語があまり話せませんが、この夢の国に六ヶ月間住みたがっていました。最初のころ、全てはとても新鮮でしたが、アメリカの生活に慣れると、本当にホームシックになりました。誰も分かりませんでした。彼女の空っぽの気持ちを。

しかし、ある日おもしろいことが起こりました。ハンガリー語を話せないハンガリー人たちと会いました。このハンガリー人たちは、彼らの国について唯一のことを見せることが出来ました。舞台に行つて、それからダンスをしました。ハンガリーの民族ダンスをしました。そこで見ていた人たちは、このダンスの明るさとダイナミズムを不思議に思いました。でも、その若

い女の子は本当に喜びました。ちょっと家にいるような気持ちでした。

この若い女の子は私です。このときに分かりました。

私たちの文化と民族のメンタリテイをいつでも持っていることがどんなに大切かを。言葉はもう忘れましたが、ダンスはまだしています。この夜、ハンガリーのグループ以外にもドイツやアメリカやフランスのグループもダンスをしました。互いの言葉を話さないで、他の人の気持ちを分かりました。ダンスの言葉をみんなは分かっていたので、普通の言葉なしで話しました。これは、何千キロも遠い国に住んでいる外国人でもつなげられる国際的な言葉です。民族ダンスは、他の何にも似ていないと今でも思っています。どんな国でも民族ダンスは私たちの親の仕事と生活について教えています。残念ですが、今日の私たちの現代の生活で、伝統を守るための若い人の時間がありません。でも、もし彼らが何もしなかったら、私たちの子供は私たちの文化や伝統を、誰から、どう勉強

するつもりですか。数世代後、誰も何もしなかったら、私たちの親と彼らの伝統を段々忘れて、それによって私たちの文化の一部を永久に失ってしまおうでしょう。

このことを起こさないためには、私だけでは十分ではありません。もっとたくさんの方の手伝いが必要だと思います。

大学の部 二位

ついてない私

ヨーナーシユ・ティーメア

全ては夏の七月に、小学校のクラスメイトとクラス会があった時始まりました。殆んど皆が来て、輪を作って、座した後お話を始めました。それから、突然昔のクラスメイトの男の人が私に「すみません、何か落としましたよ。」と言ったのです。私は下を見て、すぐ顔が赤くなりました。皆さん知っているとおり、胸を大きく見せるブッシュアップブラがはやっています。実は落ち

た物は、ブラのパットでした。私はパットを見えないように手に詰め込んで、ばれないようにハンドバッグの中に滑らせました。

どうやって抜け落ちたのかわかりませんが、その場でもう二度とブッシュアップブラは付けないと約束しました。

祖母が私に「不幸は三回来る。」と言って、それはこんなふうになりませんでした。

次の不幸な事は、中国語を習っている男の人とデートがあった時でした。オペラ座で日本上演があつて、私達も見かけたのです。よし、彼と一緒に行くかと思つて、きれいにおめかしをしました。しかし、彼は自分の分だけじゃなく、私の分までチケットを前もって買うのを忘れていたのです。だから、結局それを観る事はできませんでした。しかし、その日は、これからが大変だったので。

私は前日買ったハイヒールをはいで、デートへ行きました。歩きながら、右の靴のかかとの変な音に気付きま

した。レストランで座した後、靴に何がこつたのかをし知らべて、びっくりしました。散歩しながらどこかで靴のヒールから底がとれて、なくなつていたので。しまった。もし彼に気づかれたら、どんなに恥ずかしい事か。歩く時、あまり煩い音を出さないようにとても気をつけていて、多分足首脱臼があつたかのように見えたであろう。

最後の不幸は運転教習の健康診断に不合格となつた事です。私はマネキンの鼻に自分のいから息を吹き込まなければなりません。私はきぜつするほど一生懸命がんばつて、吹き込んだのに、でもマネキンのむなもとはちつとも動きませんでした。きつと吹き込んだ場所を間違つていたので。友達は、少しマネキンの鼻をかめばきつと成功するだろうと言いました。次はそうにやってみると、マネキンの鼻に自分の歯の跡が残りました。でも、まあ、最低でも吹くことができます。

祖母の言う参会の不幸がやって来

ましたが、もう夏も終り、こんなにたくさん不幸が来たので、これからは幸運になる事を願います。

高校の部 一位

私の好きなきせつ

サボー・ジュジャンナ

皆さんは春夏秋冬どのきせつが好きですか。ほとんどのハンガリーの学生は夏が好きです。でも私にとって一番好きなきせつは冬です。そして一番きらいなきせつは夏です。春は植物や動物にとって一番しんせんなきせつで秋はこうようしておちていくはっぱをみてしを書くし人にはとても良いきせつですが私にとっては夏と冬のようなはつきりとしたきせつの間の時間にすぎません。ハンガリーの学生は夏が好きです。ラジオからは「パルトンに行っていい気もち」のような内容のあまりないうたが一日中なが

れてみんななにもしないで遊んで食べて飲んでねるだけです。一・二週間ならそのように休むのもいいですが二ヶ月もそのように休みのは時間のむだです。なにより私は学校へ行けないのがさみしいです。たくさんの人が冬は灰色になった暗い気もちになると言います。

初雪がふって雪が全てのものをかくして町中が真っ白になった朝が一年で一番うつくしいとわたしは思います。夏のわらいは口を大きく開けたばかりなのですが冬のわらいはここからのほほえみです。そんなしずかな冬の日には寒い北風と家の中のおたたかさのコントラストがあります。外が寒くなればなるほど家の中やきるものはあたたかくなります。そしてストーブやコートだけでなくこころの中も一年で一番あたたかくなります。なぜなら一年で一番みんながやさしい気もちになる行事が冬にはあるからです。クリスマスの夜は町はとてもしずかになります。家のまどにはクリスマスツリーがおかれクリスマス

音楽がながれます。クリスマスのおかげでその日だけは一年中けんかをしていない人もやさしい気もちになつてなかよくなれます。町のよごれたものを雪がかくすようにこころの中のきたくないものを冬がかくします。冬は私たちのこころをきれいにします。ですから私は冬が大好きなのです。私は冬に「ありがとう」とお礼を言いたいです。

高校の部 二位

クリスティアンありがとう

シュミット・ジュンジ

私の母は病院で働いています。そして私はそこでクリスティアンという男の人と会いました。彼は一八才でしたが、がんでした。彼は彼の病気がなおらないことをよく知っていて、毎日大切に生きようとがんばっていました。そして、同じ年のだれよりも子どもたちに親切でした。私たちはたくさん時間をいっし

よにすぎしました。私はサッカーが好きではありませんでしたが、彼といっしょにサッカーの試合を見に行きました。そしていっしょにピクニックに行ったり、えいが見に行ったり、コンサートに行ったりしました。でも、彼の病気はどんどん悪くなっていました。クリスティアンはお医者さんと、とてもながよかったですが、でもそれは何の助けにもなりません。そして彼はもう病院の外に出ることもできなくなりました。

私はいつも彼といっしょにいたかったです。でも私は学校へ行かなければなりません。毎日病院に行くことはできません。そしてある時、私はいそがしくて長い間、病院に行くことができませんでした。そして彼に電話をすることもできませんでした。

数日後、私はひさしぶりに病院に行きました。そして、そこで知っているかんごふさんと会いました。彼女は私と会った時、何も言わないで、私の手をにぎりました。その時、私はもうク

リステイアンと会うことができなことがわかりました。そして彼のわらっている顔を見ることができないことも、彼の声を聞くことができないこともわかりました。私は何も言うことができませんでした。そして、なみだがどんどん出てきました。私は泣きました。

彼は私にとってとても大切な人でした。そして私はいつも彼と一緒にいたかったです。でも私はそのことを彼に言うことができませんでした。私は今までこんなに悲しかったことはありませんでした。そしてこの悲しみを今でも忘れることができません。

私たちは愛している人と別れた時、初めてその愛がとても大切だったと気がつきます。私は、愛は何も言わなくても伝えることができると思っています。でもクリステイアンがいなくなつた時、自分の気持ちを言わなかつたことをとても残念に思いました。

しかし、私はクリステイアンと一緒にいて、私たちは毎日毎日を大切に生きなければならぬということを学

びました。クリステイアン。本当にどうもありがとう。またあなたに会いたいです。

補習校便り

ブダペスト日本人補習校は十二月十八日に終業式を行い、一月五日までの冬休みに入りました。子どもたちにとって待ちに待った冬休み。クリスマスからお正月にかけて国外旅行やスキー、日本への一時帰国などそれぞれ楽しい計画があるようです。

二学期は季節的にも期間的にも最も学習や運動に適した学期であり、運動会や遠足、文化祭などの行事が盛りだくさんです。また、アメリカンスクールやハンガリーの学校では、新学期を迎え、子どもたちは学校生活に慣れるために苦労も多いようです。しかし、子どもたちは忙しいながらも、充実した毎日を過ごしてきました。そんな中で準備を進めてきた文化祭は、子どもたちにとって思い出に残るイベントとなりました。

文化祭は十一月二十日、土曜日に行われました。あいにく、前日の金曜日には大雪に見舞われ、吹雪の中、会

場準備にきている学年もありました。大雪のため準備が十分にできず、一時は中止も考えましたが、子どもたちが前から楽しみにして、この日のために準備をしていたことを考えると、不十分でも開催しようと思えました。文化祭は、低学年の子どもたちが楽しめるものを、中学生を中心に高学年の子どもたちが、企画・運営する行事として昨年より取り入れていきます。この行事は、子どもたちの創造力・主体性が大いに発揮できるという点で、他の行事とは性格が異なります。今年の出し物は何にするか、どのように組み立てていくか、役割分担はどのようにするか、自分たちで決定することが、たくさんあります。

今年はお店とゲームが中心で、一部の学年と有志による発表もありました。当日は、プログラムが二部で構成され、発表の部と模擬店の部でした。前半の発表の部は、小学一年生による人形劇「橋の上の狼」、続いて女子中学生有志による創作劇「危ない3匹の子豚」、そして最後に、男子小・中学

生有志による歌謡ライブでした。後半の模擬店の部は、小学二年生はゲーム「タイムリミット・エレベーター」、小学三年生は的当てゲーム、小学四年生はお化け屋敷、小学五年生はくじ引きゲーム、小学六年生は勝ち抜き新聞バトル、中学一年生は射的・的当てゲーム、中学二年生は喫茶店でした。子どもたちは、友達の家を集まって、お菓子を焼いてきたり、ゲームに使う道具を作ってきたり、プレゼントとして折り紙を折ってきたりなど様々な工夫を凝らしていました。会場は大変盛り上がり、見に来られていた保護者の方々にも大好評で、子どもたちの生き生きとした様子が印象的でした。

ところで、九月に日本で行われた在外教育施設教員研修会（十日間）に坂井圭子教諭が参加し、帰還後校内で報告会を行いました。研修会で特に強調されていたのが、第一言語としての日本語習得の重要性でした。特に思考の拠り所となる学習言語は、意識的に努力しないと身につかず、第一言語習得が十分でない場合は、「セミリン

ガル」(第一言語も第二言語も中途半端の状態)になる可能性があるということでした。「バイリンガル」(二カ国語とも自由に操れる状態)になるのは希で、よほどの努力と才能が必要であり、外国にいるから自然と外国語が身につくだろうという考えは大きな間違いであることが強調されていました。現地校に子どもを通わせている保護者の方々へのお願いとして、子どもにとって異文化の中で生活し、第二言語を習得することは大変なプレッシャーであるので、あまり過剰に期待をかけすぎないようにとのことでした。このような報告を受けて、補習校では第一言語としての日本語をしっかりとし、身につけさせるような教育を行っていききたいと思っております。

さて、三月には派遣教員が交代いたします。当初は、文部省からの次期派遣教員が派遣されないという状況でしたが、糠沢大使ならびに大使館の方々、商工会、日本人会、保護者の皆様のご尽力、ご支援のもと次期派遣が可能となりました。この場をお借りし

て厚く御礼申し上げます。四月には後任者が参ります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

作文

サッカー特別講座「2週間でサッカーのけりができちゃう」

小学三年 青木 亮太

1. ボールになれよう(一日目)
まず、ボールをけったら、もう一回ぐらいやろう。これを何回もくり返す。

(ちよっと一言)
あきらめずにがんばろう。つかれたら、十分休もう。

2. パスをしよう(二日目)
きのうやったことを五回くり返す。かべに、ボールをあててみよう。はねかえったら、ボールを足で止めよう。これができるまでやる。

(ちよっと一言)
強くけりすぎると、あぶないから気をつけよう。

3. 高くけろう(三日目)
次に、高くけってみよう。高くける

には、ボールのそこを強くけろう。

(ちよっと一言)

友達や親に見てもらおう。がんばれ。

4. 強くけろう(四日目)

ボールの真ん中を強くけろう。できるよ。

(ちよっと一言)

できなくてもだいじょうぶ。できるまでやろう。がんばれ。

5. 高くて長いきよりをけろう(五日

目)

もう一度高くけってみよう。できたらボールの下をものすごく強くけってみよう。

(ちよっと一言)

もうすぐだよ

6. けりをコントロールしよう(六日

目)

コントロールするのはちよっとむずかしいけど、君ならだいじょうぶ。風はどちらへふいているか考えよう。わかったら、コントロールできるよ。左にけりたかったら、風が左にふいていたら、左に強くける。

(ちよっと一言)

むずかしいけどだいじょうぶ。もう少し。

7. ゴールに入れよう(七日目)

もう二回強くけってみよう。ゴールのコーナーをねらって、シュート。

(ちよっと一言)

入らなくてもだいじょうぶ。入れた君には、おめでとう。

注意 コンクリートでやらないで、土の上でやろう。

人の顔にあてないようにしよう。

恐怖の文化祭

小学四年

谷野 史織

「ああねむいな」

十一月二十日土曜日、私はお母さんとお父さんとこうきといっしょに、朝八時に家を出ました。補習校についたら、すぐかおるこちゃんと会ったので、びっくりしました。にもつをおいてフルーツポンチを作りました。その間、私とゆうとくんはぬり絵の準備をし

ました。ぬり絵が終わったらお化けを設置しました。おふだも置いたし、もうかんぺきでした。

開会式が始まるようになって園部先生が「題名は何ですか」と言いました。みんなが「お化けやしき」と答えたら、そのべ先生が「ゆうとんのお化けやしき」と言って、行ってしまいました。題名がゆうとんのお化けやしきになったわけは、ゆうとくんが目の前に立っていたからです。

もう開会式です。開会式は、三十分もかかりました。開会式には、始めの言葉、小学一年生による人形げき、中学生によるげき「危ない三匹の子ぶた」とグループ「shoot」によるデビューライブがありました。

終わったあとにお店がオープンしました。ゆうとんのお化けやしきには、たくさんの方がならんでいました。はじめは、十五分かん開店したらお休みで三十分かんきゅうけいにしようと思っていました。しかし、まだお客さんいたので三十分かん開店して、十五分かんきゅうけいしました。

ある時、とつぜんつくえがおちてきました。とてもこわかったです。つくえをなおしてからお化けやしきを再開しました。

私たちが終わるときには、ほとんどのお店が閉まっています。フルーツポンチは、もうありませんでした。かたづけるまえにみんなにあまったおりがみを小さい子にあげました。園部さんが「あまったらアメリカンのバザーに使いたいから」と言いました。使ったお化けは、小さい子にあげました。みんな、よろこんでいました。とてもうれしかったです。

もう終わりなのでみんなが、帰っていきました。とてもたのしかったです。

恐怖のお化け屋敷

小学四年 尾崎 雄人

「よしっ作るか」

二十四日前の木曜日に、僕は決めた。何を決めたかというと、お化け屋敷の

ためのお化けを作ることだ。

最初、その日（二十四日の前日）に、ビビエンをのぞく四年生全員がうちに来てお化け屋敷に何のお化けを出すか決めた。

次に、選んだお化けを書いた。この時、薫子さんと僕はお化けを書いて、しおりさんは折り紙で〇〇をおつていた。（この〇〇は後でわかる。）そして、出すお化けと怪物を決めた。その後画用紙を十枚ぐらい用意した。次に画用紙を二枚くっ付けてお化けを書いた（四枚使うものもあつた）。

木曜日同様、月曜日もお化けを書いたが、途中で終わったので、色塗りをしても疲れた。そのうち運の悪い事が起きた。それは薫子さんとけんかをいっばいしたことだ。それで十八日の木曜日にしおりさんはお化けを切り、僕と薫子さんは色を塗った。

そして翌日四年生の教室のドアを開けたら、何と机の迷路が作られていた。みんな来ていたので僕は最後の一人のようだ。いそいそでお化け屋敷の

準備をした。

開会式の後、SHOOTというグループの歌があつた。最初の音楽が流れていよいよ始まる！という時に、何と音楽がイキナリ止まったので、みんな大笑いした。けれど二回目は、ちゃんとできた。次に危ない三匹の子豚という劇があつた。

いよいよ開店の時間だ。お化け屋敷は凄まじい行列！ビックリした。僕たちは、一応うまくできた。商品やフルーツポンチが目当てで、来た人もいた。

でもとても、とても、とーっても楽しかった。

しかし、隠れながらおどろかすのはけっこう痛い。（机の下を通るため、頭をいっばいぶつけるからだ。）島田先生は、「お母さんたちはすごく怖がっていたよ」と言っていた。

でも来年もこういう行列のできる店がいいな。（最初の〇〇は鶴だよ。お化け屋敷に来た人ならワカルヨネ！？）

がんばったお化けたち

小学四年 大河内 薫子

「おはよ、むにゃむにゃ」

私は、その日七時、目がさめた。誰も起きていなかったの、お母さんをおこしにいった。お母さんは目をさましていた。けれどお父さんはぐっすりねていて、いびきを「グ〜グ〜ピ〜ピ〜」とかいていた。やっとお父さんがおきたところで朝ご飯。外は雪。電話がないので、今日は文化祭あり。

四年生は一時間早く集合をして、お化け屋敷の準備をした。一番に学校についてしまった。部屋を開けたら、中は真っ暗。まだお化け屋敷は完成していないのに。もう私は、体がふるえてしまった。しおりちゃんのお母さんが手伝ってくれたので、フルーツポンチ作りは、早く終わった。

開会式が始まった。妹が人形げきをやった。家でほとんど練習していなくて、文化祭の前日にほんの少し練習しただけだったので、お母さんがあきれ

ていた。だから何だか心配だったけれど、無事に終わって一安心。

いよいよ、ゆーておのお化け屋敷が始まる。私は、受け付けの仕事で、フルーツポンチを配ったりした。教室の中の様子が心配だった。人の列が長くなり、四年生のみんなは忙しくなつた。私もフルーツポンチをよそうのが大変になってきた。でも、私はお化けがとも怖いので、この仕事でよかつたなと思いつながらがんばった。自由な時間になり他の学年の場所へ遊びに行った。いろいろなゲームや喫茶店があり、楽しかった。

日本の学校は全校で千三百人くらいの児童がいた。でも、この補習校はたったの四十五人。こんなに少ないのにいろいろな出し物やゲーム、踊りなどを計画して楽しめるなんて、すごいとおもった。中でも、やっぱりお化け屋敷が一番工夫していて、よかつたかもしれない。

他の場所で遊んでいたら、休けい中のお化け屋敷の前に行列ができてしまい急いで、雄人君としおりちゃんを

よびに行つて、また仕事にかかった。やっぱり大変だった。そんなことの繰り返しで、すっかり汗びっしょりになってしまった。

お母さんに「絶対お化け屋敷にきてね」。と約束していたので、お母さんとお父さんの顔を見たら、とてもワクワク、気持ち良かった。お化け屋敷から出てきて「どうだった？」。と聞いたら、「すごくよかったよ」。と笑つていったので、ほんとうなのか、うそなのかよくわからず不思議だった。

大きな声を出してがんばって、いろいろな案を考えて、よく動いて、おまけに雪もたくさん降って、この日は、冬なのにあつい一日だった。

Eメールの文化祭

中学二年 園部 清子

文化祭の一週間前、とある一通のEメールが私のメールアカウントに届いた。「よおー。元気か？そういえば文化祭11月20日なんだって？あと一週間しかないんだぞ。大丈夫なのか？オレの学校の文化祭なんて一ヶ月前から準備してギリギリ間に合ってたんだぞ。まあ、この一週間サボらず準備するんだな。じゃあな」

このメールを読んで誰からのかわかる人もいることだろう。こんなメールが日本から届いた。そしてその一週間、このメールの送り主に言われたように、一週間一生懸命準備した。そして自分でも信じられないほど、文化祭は楽しく盛り上がった。そして月曜日の夕方、私はこんな一通のメールを日本に送った。

「一週間ぶり。元気？あんなに『大丈夫か』とか『間に合うのか』とか言っていたけど、間に合ったよ。自

分でも信じられないぐらい楽しく、盛り上がった文化祭だったよ。でもねえ、一つ反省しなきゃイケナイ事があるんだ。あのね、賞品の為に学校から買ってもらったリース、全部使わなかったの。コレ、すごく反省。だって責任感なさすぎだもん。今、思うとすごく自分に悔しい。まあ、今年の文化祭はこんなカンジだったよ。じゃあねー」

私の友達はアールグレー君。アールグレー君はすごく有名だ。性格は、ちよつとしぶくて、私のお兄ちゃんみたいな存在であった。すつごく心の温かい紅茶。一回アールグレー君の心が温かくなったら、みんなの心も温かくなる。幸せな気分になる。アールグレー君の心は、ちよつと甘い。でも、温かからすぐとける。

アールグレー君には、彼女がいる。スプーンちゃんだ。スプーンちゃんは、いつも一緒にいる。いつも、横にいいいな、私もいつでも一緒にいてくれる人がいたらなあ。でも、私も友達はいるよ。まずは、アールグレー君、砂糖ちゃんに、ミルクちゃん。でも、アールグレー君は、もつといるんだもんなあ。コップ君、お皿君、そしてもつと。飲んでくれる人も、友達なんだ。あつ。私のふたがあいたよ。私にも、友達が増えるんだ。うれしいな。

私の旅

中学二年 鹿目 はるな

我が儘日本人シリーズその二

リスト音楽院生コンサート

秋山 忍

ハンガリーの寒くて長い冬を過ごすには、わがままな日本人なら、まず「お風呂」ですが、次は何と言って「芸術」でしょう。特に、ここブダペストで音楽を楽しまないのは、パブリカのないグヤーシユ、ドナウ川の無いブダペスト、「きんさん」が死んでしまった「きんさん」のようなもの。今回シリーズ第二弾は、音楽が好きでしようがない、手軽に楽しみたい、芸術家のテンションを間近に感じてみたい、良いピアノの先生を見つけない、将来のスターとお友達になりたい、ただ単純に若い人の集まるところに参加したい、でも、できることならお金はかけたくない、そんな贅沢なあなたにお薦めのスポットがリスト音楽院生による「自主コンサート」です（リストの学生の皆様、気に障ったらご免なさい。「お客が増える！」と前

向きに捉えて下さい。お客様は神様です）。

リスト音楽院について

まずリスト音楽院の概要についてこと一八七二年、ヨーロッパの音楽会のトップに君臨していたフランツ・リスト（ハンガリー語ではリスト・フェレンツ）の故国への帰還により、ブダペスト王立音楽院初代総長としてスタートする。そして、ブダペスト、ワイマール（ここにもリスト音楽院がある）、ローマの三箇所を起点として活動したのである。

リストは、ハンガリーの民族音楽（実際はジプシー音楽）を素材とした作品を多く残した。厳密に言えば、ハンガリー民族音楽とジプシー音楽は異なるものだが、この時代では混同されてしまっていたというような事があつたらしい。自分自身も優れたピアノリストであつた彼は、ピアノという楽器の可能性を追求し、多くのピアノ作品を残している。そして忘れてはなら

ないのが、交響詩という新ジャンルを確立した作曲家であるということだ。交響詩というのは、管弦楽の分野での絵画的・詩的内容を表現した標題音楽の一種で、交響曲のように多楽章からなるソナタのような形式にとらわれないもので、多くの場合一楽章形式で成り立っている。つまり、テーマが作曲者の意とするものを表現しつつ、自由に変容していくという事である。

現在リスト音楽院には、大小合わせて四つのホールがある。クラシックファンの方ならお馴染みの大ホール、絢爛豪華な装飾が施され、中世の宮殿に紛れ込んでしまったかのような錯覚をおこさせられる。ホールの地階と一階を結ぶ階段部分はヘレンドかジョルナイによるものとの噂もある。もし、演奏に飽きてしまったら、天井を見上げてみよう。大きなシャンデリアとルネッサンス調の絵画に出会えるはずが、あまりあからさまにやると、演奏者に気づかれてしまう恐れがあるので、さりげなく、まるで音楽とホールが一体化し、それに酔いしれているよ

うな演技力が要求される。

そして、学生によってよく演奏会が行われている小ホール。ステージが少々暗く、椅子や使われていない場合もピアノが出ていたりと雑然とした雰囲気醸し出しているが、大ホールとは違った落ち着いた気分になれる。生演奏の途中で突如として起る、自然界によって発せられる様なサウンド（サイレンや犬の声、クラクションなど）との融合は何とも言えず偶然性の音楽（ジョン・ケージ）が頭の中をよぎるかも。

もう一つは十番教室。こじんまりとした部屋で、演奏者の一挙一足が手に取るように感じられ、観客までたまに緊張してしまったりする。何を隠そう、会場の椅子やピアノは演奏者みずからの手で設置されるのであるから、演奏前に疲れてしまう人もいるらしい。残りの一つは、レーギと呼ばれる建物にあるホールである。暖かみのある色調のインテリアで統一され、シャンデリアの下での演奏が楽しめる。（島田）

自主コンサートとは…

ここに通う学生達は、一年に二回この伝統あるリストの小ホールをコンサートで借りることができる権利を持つているため、各自、日頃の練習成果を発表する場として、自主コンサートを行っている訳だ。これを放つておく手はない！

お客集めの為に、演奏会前は常時チラシを持ち歩き、普段の行動範囲では会えない知人には電話をかけるなどの涙ぐましい努力が行われているのである。この努力を踏まえて、お時間のある方は、是非気軽に演奏会にいらして頂けたらと「思っている人が多いと推察される。勉強中の身であるということ、多少のことは目をつぶって、次回に期待をと思えば、成長の過程が見えて、違った意味で楽しめるかも。（島田）

こんなにお得…

なんといっても特典は入場料無料、しかも、リストフェレンツェの小ホールの最前列で予約を取ることがなく、いとも簡単に演奏を聞くことができる。演奏後は楽屋にて写真撮影、サイン会などあるかも。また、会場外のカフェ（？）では、たった五〇フォロント前後でお釣りを誤魔化さず、イヤな顔もせず、いつでもすぐに熱いコーヒージャコアを出してくれる。（コインを入れるだけで！）

学生達、そして演奏…

音楽院学生の数は全体で約四六〇

名、日本人はピアノ、チェロ、クラリネット等レギュラー、ブライベートを併せ約六〜七〇名がレッスンを受けて来ている。例えば、チェリストでやさしい音色髭のA、生活も音もアクテブなB、ピアノリストでは、人を幸せな気持ちにさせる音のC、安定感があり安心して聞けるイタリアコンテスト優勝のD、奨学金で入学した実力派のE、若者らしいいきびきびとした音のF、ダイナミックで面白味のあるG、華やかな舞台の華を目指すH、元モデルと噂される可憐なI、女性らしい色っぽい繊細な音のJ、血液型A Bらしくある時は激しくある時はかわいく弾きこなすK、地道なコツコツタイプで伴奏を好む渋いL、高校を卒業してすぐに海外に飛び出したM、日本人社会と付き合うことなく一人たくましく勉強するN、本当に沢山の芸術家が演奏を行った。

学生諸君！せっかくの機会だから、今だからできるダイナミックな発想、大胆なパフォーマンス、試行的演奏等取り入れ、どんどん積極的にコンサー

トを行ってほしい。また、演奏だけではなく、マネジメントから広報、ポスターのデザインまで勉強のつもりで頑張ってほしい。(親父入ってます！)

コンサートの楽しみ方「さあ、みんなです」
んなで評論しよう」…

日頃、音楽には「うとい」あなたも、この日だけは「いっぱい」の音楽評論家になりきることができる。演奏者のステージでの立ち振る舞いから、すぐそばで見ることのできるテクニク、演奏中の表情、息使い、表現力、そして、身近に彼らと接していれば、その性格や生活が知ることができるわけですから、それらがどのように音楽に影響するのか、音として表現されるのか、その関連性についてはどうか？、さらに、この芸術家・演奏家の生い立ち、そして人生は…なんて考えると興味は尽きない。(いやな客だね)さらに筆者の場合は、ホールの最前列に陣取り、その観客達にまで採点に入ることになる。今日の観客の質は、

態度は、そしてその反応は…こんなコンサートの楽しみ方はここでしか味わえないだろう。

ただし、勝手に辛口の？評論するだけではなく、演奏後のステージや楽屋に花束を持っていく、握手してもらおう、打ち上げでおごる等、できるだけ応援してあげよう。(尚、問題や誤解を起さぬよう注意！)

コンサートインフォメーションの入手は…

コンサートの日程や内容は、ブダペスト在留日本人・学生憩いの場「ありがとう」、日本レストランの中心・老舗である「富士」、奥様方の社交場・新風「うさぎ屋」が掲示板等にて掲載しているほか、これからは、日本人協会報誌「ドナウ通信」及びヤパンコープの情報誌「パブリカ通信」に掲載されることなので、そこで情報を入手しよう(筆者の調査では、営利目的でないコンサート情報については、前記各所において無料で配置・掲載してくれると快く協力してくれるとのこ

と)。

リスト音楽院から期待の新星登場！(ダサイキャッチフレーズですが…)

最後に、日本で、まさに今、羽ばたいている若手ホープ(とこれまたダサイコピーですが…)を紹介しましょう。
・プロフィール:

名前:古川 展生

ふるかわ・のぶお(通称ノビー)

生年月日:一九七三年五月九日

(京都生まれ)

趣味:テニス・サッカー・読書

略歴:九才よりチェロを始め、桐朋学園大学音楽部演奏学科卒業。一九九二年東京国際コンクール室内楽部門斉藤秀雄賞受賞、一九九五年日本音楽コンクールチェロ部門第二位、一九九七年マルクノイキルヘン国際コンクール(ドイツ)チェロ部門ディプロマ賞受賞、一九九九年今年リスト音楽院より、東京交響楽団に首席チェロリストとして入団。

・CD発売中:コロンビアレコード

より下記二枚発売中!

「I LOVE YOU」(ラブソング・オン・チェロ)

尾崎豊の名曲(アイ・ラブ・ユー)を始め、サザンの(いとしのエリー)、井上陽水(少年時代)、竹内まりあ(元気を出して)ほか、ラブソングばかり合計一四曲を集めたポップなアルバム。特筆は、あの寺尾聡の駄作LP「ルビーの指輪」を見事にアレンジした井上鑑(知る人ぞ知る、知らない人は知らない)がやっている!

「CELLISSIMO」(チェリッシモ) バッハ(無伴奏チェロ組曲第一番 プレリユード)ほか、ドヴォルザーク、ワーグナーまで、チェロの名曲集。ハンガリーファンには、ポツパー(ハンガリー狂詩曲)の挿入が嬉しい。筆者個人的にはこちらがお気に入りである。

・古川さんに対するコメント:

非常に好青年である。ブダペストでは、

ギャンブル・女の子好き(?)ではあったが、現在はそのパワーを音楽のみに精進しているとのこと。市場開拓されていないマイナーな日本クラシックチェロ界で、新風として、必ず人気が出るかと確信する。視覚的にも「かわいい系」でアイドル的要素が有り、テクニクもしっかりしている。その音作りも非常にナチュラル、しかも人を招き入れ、引き込むような雰囲気を持っている。まさに、彼の音が「優しい声」として、「人の奏でる音」として心に語りかけてくる、そんなサウンドだ。芸術家向き天才肌のAB型なので将来有望(自称音楽評論家:秋山談)

…何を隠そう筆者もAB型である!

・現在の状況:

日本にて爆発的人気?少なくともCDを入手するため、筆者が九月、日本滞在時にCD屋三件まわったが、いずれのお店も売り切れ、来年、早々にも三枚目のCDが発売とのこと。しかも彼の出演したCMがオンエアされ

るとの噂もある。次回、ブダペスト訪問時にはぜひ、激励会をやりたいものです！

・ 本人からのメッセージ（一二月三日FAXにて）:

この度は御紹介ありがとうございました。お蔭様で日本で頑張っています。CDについては、二〇〇〇年一月二日に三枚目のアルバムがリリースされます。今回の内容は、オールピアソラ作品に取り組んでいます。ピアソラは、アルゼンチンタンゴの異端児と呼ばれた非常に魅力的な作曲者でバンドネオン奏者です。彼のチェロとピアノのためのオリジナル作品「ル・グラン・タンゴ」などを中心としたとても良い内容に仕上がっていると思いますので、皆様ぜひ聞いて見て下さい。一月末にもしかするとブダペストに行くかもしれませんので、その時は皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

・ CD注文:

とりまとめ注文しますので、希望があれば下記メールまたは秋山まで御連絡下さい（見本有ります）。

（注）

・ 「リスト音楽院について」と「自主コンサートについて」は現役バリバリ留学生の島田陽子さんに執筆して頂きました。

・ 今回は、絶対的に人数が多いリストの学生を中心に報告しましたが、ハンガリーには他に、コーダイ音楽院等、またプライベートでも沢山の留学生が留学にきています。皆さん全員に頑張ってもらいたいものです。一生懸命やっている人をみんなで応援しましょう。

この文書はあくまでも個人的なものですので苦情や御意見等ある方は下記アドレスまで連絡ください。また、面白い情報、アドバイス等ありましたらお教え下さい。

s-akiyama@mail.matav.hu

随想

国旗、国歌法成立に想う

相馬 笙子

「ああ、とうとう！」と非常に残念に思う。公立小学校音楽専科として仕事をしてきた二四年間、私は常にこの問題と対峙してきた。得に君が代問題で悩んできたのは、公立小、中学校及び高校の音楽教師達である。又心ある校長達も共に悩んできた。音楽教師達は実際の指導の場で、校長達は教育委員会との軋轢に悩み続けてきた。

指導要領に「儀式等で歌うことが望ましい」と記載されていた時はまだ気楽であった。いつの間にか「望ましい」が「歌うこと」に変わり、「私としては歌うことをお願いしたい」と言っていた校長達が職務命令を出すような事態も起こるようになった。職務命令とは従わなければ罰せられるという

意味を持つ。職務命令など出したくはないと首を垂れた校長もいた。

私自身は日の丸に対して、余り抵抗はないのだが、太平洋戦争の中で日の丸を胸に「天皇陛下万歳」と叫んで死んでいった若者達を思う時、入学式や卒業式の壇上に麗々しく掲げられた日の丸はやはり認めがたい。ましてその日の丸に最敬礼などする来賓を見ると、チヨー！ムカツクのである。

歌とは心の発露である筈だ。ことが音が伴って、何かを表現する。それは喜びであったり、悲しみであったり、あるいは愛であったり、静けさであったり様々である。

君が代は何を表現したか。君が代の「君」は、大君（天皇）の「君」ではなく、あなたという意味の「君」であるという説もあるが、「あなた」という意味で君が代を歌った日本人は一人もいないだろう。楽しく君が代を歌った人が一人でもいただろうか。君が代の譜には「おごそかに」と書かれている。

長い間教科書には古歌、あるいは日

本古歌として最後のページに載っていた君が代が、括弧付きで（国歌）と載るようになったのはいつのことか。

教科書は三年毎に改定されるので、その改定のどこかの段階で（国歌）となったものと思われる。昭和五四年（一九七九年）にはすでに（国歌）となっている。法制化はつい最近行われたわけであるから、いつの間にか国歌として教科書に載ったことについては文部省の横暴としか言いようがない。

毎年卒業式の時期になると夜遅くまで職員会議が行われ、結論の出ない話し合いが続いた。結論の出ないことは分かっているながら、私達はまじめに話し合った。

こうして毎年やることになる。直接子どもに教える立場にある私は一人で対応を迫られることになる。自分の教育理念は変えられない。しかし公立学校の教師であるから公正でなければならぬ。私は考え抜いてすべてを曝露け出すことにした。小学校五・六年の子ども達に私の考えていること、校長を含め、教師達はどんな話し合いをしたか、そして結局歌うことになった経過を正確に伝えてきたつもりだ。

君が代は一九四五年の終戦までどんな意味で歌われてきたか。第二次大戦下、君が代も日の丸も軍部によって積極的に利用され、日本が犯した過ちを大いに開きがあること。法制化された事実はないこと。戦後君が代がどう扱われたか等々。君が代について言えば子ども達もまた歴史の渦中にも関わらず、教師達の多くが反対であっても歌わなければならぬ矛盾や、この問題をどう解決していったらいいのかを考えてほしいと訴えてきた。私は、民主主義国歌日本の新しい国歌が将来みんなの手で作られることを切

望していると話を結んだ。

信念を曲げなければならなかった私が密かにやった抵抗

- ・ なるべく卒業式近くまで教えない。多くても二回しか教えない。
- ・ 練習では君が代は常に省く。
- ・ おごそかにならないことを期待してアップテンポで歌う。(わからぬ程度のアップ加減が難しい。)
- ・ 当日卒業式では必ず伴奏を間違える。

誰も気がつかなかった。たった一人、私のこの密かな抵抗を見破った校長がいた。「君が代ってあんなに速く歌うんでしたっけ？」とある時ポツンと言った。この校長も本当は歌いたくなかったのだと思っている。「あなたの考えていること分かりますよ」と受けとめていてくれたのだと思っている。この人はピアニストで音楽がよく分かっている人であったし、卒業式が終わるまで何も言わなかった。

次ぎの世代へ託してきた新しい国歌の夢は破れた。戦後五四年も経って法制化とは政治家も怠慢である。教育

の現場に混乱と苦難をもたらし続け、ついになし崩しの法制化へもつていったことに日本の政治の典型を見る思いがする。私の努力が何もみられなかったことにこの上なく虚しさを感じる。

国旗、国歌法成立を聞いて、今は大人になった当時の子ども達の中で、何人かは私を思い出してくれただろうか。

一九九九年十月

洪邦徒然

「FOXがみた

定年退職者の海外生活」

香川 良和

我輩はFOXである。狐仙界の掟に従い天界で修行すること三年、読心術の表裏を究めたが、天帝の指名された配属先は、何と定年退職した爺さんの持点に反映される。昇級・昇段はこの公式戦以外にない。

対局の方法は、持点に反映される。昇級・昇段はこの公式戦以外にない。対局の方法は、嗽コップのラベル絵の中。現在、物価高の日本を逃げ出し、ハンガリーに住む爺さんのお供で、心ならずも故郷を後にしている。異国の空のつれづれなるままに、爺さんの最大の道楽を通じた東欧囲碁事情をお伝えしてみよう。

初段回復に汲々

「バツカだなあー」

爺さんの夜中の大きな寝言に、上さ

んが慌てたのは最初の中。最近では、それが負けて混んで帰ってきた爺さんの、ゴマメノ歯ギシリと承知しているから驚くことはない。

爺さんは日本を出るとき、棋院の海外普及部員から、「ヨーロッパでは二つは下げて云うほうがいい」と忠告を受けた。

池袋西口の碁会所で、そろそろ四段と云われていたから、些かの自信をもって初段でマジヤール囲碁協会の会員にして貰ったのが、ブダペシュトに住むようになった九七年一月。

ゲツレルト温泉の近くに、地下の集会所があり、入った一角がバールでビリヤードも。ダンス教室と兼用の碁会所は火曜夜が例会日。いそいそ出掛けた爺さん、手合い時計と少年・少女の姿に驚いたが、噂に違わず腕つぶしは強い、が初感想。常連の数は多くて十五人程度とか。

それから二年間の対戦成績は、爺さんの意に反して、初段ラインの回復に汲々たる有様だ。東欧でもマジヤールの段級は厳しく、近隣諸国でやっと稼

いだ持点を、国内戦で吐き出すことの繰返し。

爺さんの公式戦出場は、昨年は四月のブダペシュト大会を皮切りに五回の国内トーナメント。国内戦とはいってもインターナショナル・グランプリ、日本での富士通杯アマチュア世界選手権戦への出場権をかけた大会だったり、八月セゲドでの夏季合宿大会はバカンス旅行兼用とあって、ドイツ・ユーゴ・ルーマニア等々からの参加者も少なくなかったとか。この昨年の五回の大会を初段で出場した爺さんは、見事オール負け越し。二勝四敗のセゲドでは、主催者側が気を効かせ、『最高齢参加者賞』なる記念マグカップの特別贈呈と、ご愛嬌。確かに、翌年古希の爺さんが最高齢者ではあったようだ。

斯て、この年の爺さん、初段は疎か一級でさえ危うい状態で年を越す。

二年目の本年、爺さんの対戦数は一二回と急増。増えたのは国外戦の七回。今年から替わったマジヤール囲碁協会会長は、日本での研修経験もあり、

日本語始め五カ国語を話す郵政省のエリート。言葉の出来ない爺さんの面倒を、あれこれ。この会長が見兼ねてオーストリア南部・フェルデンの大会に連れて行ってくれたのが三月。初めて三勝二敗と勝越したのに味を占めた爺さんは、ミラノ、スロベニア・ブレッドと勝越し、「初段復帰」と胸を撫で下ろしたのも束の間、五月のブダ・インターナショナル・グランプリでは、二組の友人グループの来洪に備えて旅行社等との打合せに飛び回っていたとはいえ、呆れたことに五連敗。

禍福はあざなえる縄か、近隣諸国の碁会情報を漁る爺さんに援軍が現れた。スロベニア・リュブリャナ在の理容師氏。ブレッドで顔馴染となり、五月のブダ大会の帰り途、二晩泊まって盤を囲んだ。九月のスロベニア・マリーバー大会では、爺さん、単身出掛けたが、会場は何と郊外バス、ケーブルと乗り継いだ拳句に、5kmも歩く山中の一軒家。現金出納器など影もなし。「昼食抜きの特局」と覚悟していた爺さんの前に現れたのが彼で、遂に爺さ

ん彼から寸借し、山下の駅まで送ってもらったのご帰還となった。そんな縁で、十月のスロバキア・ブラティスラバ大会、十一月のブダ大会には彼の車の碁出勤。

国外戦が多くなったのは、この二人の出会いと、こうして車で行く碁会は全く安い観光旅行でもあるから。主催者側が安宿を用意してくれる上、マジヤールの皆さんは更に安い定宿を確保しているという。ウィーンでは、昔気質のマジヤール人の部屋で、床にマットレスの雑魚寝とかだが、爺さん、至極満足の態。

これだけ走り廻って、今年も爺さん、お気の毒に一級で歳を越す。

全欧の対戦成績が即時に

碁仇は憎さも増し懐かしし、だから、爺さん、苦戦を楽しんでいる風もあるが、昨年位返は、多少爺さんに同情すべき事情もなくなはない。

先ず、手合い時計。お互いの持ち時間は一時間半が一般的らしいが、碁盤の横に文字盤が二つある時計があっ

て、打っては手前のボタンを押すと、相手の針が動く仕組み。日本では手合い時計の試合など、一、二回しかなかった爺さん、心理的圧迫感が大きかったようだ。

次いでは、次の対局までの間の取り方。五回戦の場合、金曜夜一局、土曜三局、日曜最終戦となるか、土曜三局、日曜二局が普通だそう。

一日三局の場合の開始時間は、朝九時、午後二時、夜七時といった案配だから、慣れるまではこの間の取り方が難しいのだと。待ち時間、二人で三時間といつても、アマチュアの碁は日本でも欧州でも、一時間半もあれば大抵は終わる。だから次の大局迄の時間はたつぷり。爺さん、最初の頃は退屈の余り誰彼を捕らえては、日頃の大局不足を埋め合わせていたが、これでは第四・五ラウンドともなると、只でさえ鈍い頭が全く廻らない。

ところで、爺さんがこつちに来て感心しているのが、棋力の決め方だ。総て持点制。初段が千九百点で一段、一級差が七〇点トーナメントの結果で

持点が動く。日本での席亭辺りが「誰さん、もう何段でいいよ」とは訳が違ふ。席亭の段は碁会所に來た回数判断の営業政策。

このトーナメント結果はインターネットで全欧何処からでも即時に判り、どの国の試合でも、成績は確実に持点に反映される。昇級・昇段はこの公式戦以外にない。

対局の方法は、合理的なマクマホン・ルール。オール互先で、コミが五目半。だが、第一ラウンドは同格の相手を当てる。勝ち進めば次第に上級者に、負けが混めば下位者、となる。試合では、本人申請の段級により基礎点が与えられる。三段以上三〇点、二段一級は二〇点というように。そして一戦毎に対局した相手の持ち点で、勝点、負点が細かく計算されるといふ。だから、同じ一勝でも貰える点が二〇だった一三だったり。基礎点と対局毎に得た点数の合計で、そのトーナメントの優勝者、準優勝者等々が決められるが、下位の者が全勝しても、上位の一負者を追い抜くことは、まずない

らしい。土地により大会によって、多少のバリエーションはあるが、大体こういう方式だから高段者から初心者まで楽しめるのだという。

大会では、二〇から二五DM程度の参加費を集め、優勝から三、四位程と、最優秀女性・少年とかに賞金が出る。今迄みた最高賞金はブレットの八〇DM。この大会は更にランク帯毎に百の賞金だったから、大盛会。五月のブダ大会も四百という大きな大会だった。一般的には二五〇前後。大きな仕合にはロシア・ウクライナ・チェコ・マジャール等々の五、六段の常連が集まる。

スロバキアでの今年の全欧選手権戦の優勝者はロシアの六段。この全欧選手権戦の出場者は三四八人で、二週間に亘る十回戦。西欧各国からの参加者は少なかったが、ツアーを組んでの日本からの参加者や西欧各地滞在の日本人の姿が目についたそうだ。本戦と並行して、短期間のレディース戦、チエルドレン戦、土日戦から一三路盤やコンピュータ対局まで。総対局者は

五〇〇人を超える賑わいだった、とか。各地を遊び歩いて、爺さん、感じる。ことが。一つはハングリー精神。在欧の中華レストランと日本食堂の比較ではないが、囲碁の世界でも中国人の進出著しいこと。タトラ高原での全欧選手権戦で目立ったのは、中国専門棋士達による多面打ち指導の姿。プロの世界だけでなく、立ち寄ったパリの碁会所（さすがパリ、常設碁会所が三箇所という）でも中国人の姿が半数程。ブダ大会でも三・四段という中国人が五、六人、優勝争い絡みで。層の厚いハングリー精神がやがて社会を制する、とか。

もう一つは、どの国でも最大の大会は、冠富士通杯のトーナメント。これだけ広く知れわたり、しかも少年・少女層に浸透していることが大きい。トヨタも来年から欧州一二都市持回りの冠トーナメント戦を提案して歓迎をうけているが、マジャールでもそんな日本企業が…、とか。

去は身を助く？」

「兎に角、粘っこい」

これが、爺さんのヨーロッパ囲碁愛好会への総括的な評価。一局毎に賞金、昇段・昇級が掛かっているからだろうが、何処かで緩んだ方が負け。最後の最後迄気が抜けないと。

爺さん、やはり歳は争われず、終始優勢に進めながら根気が続かずに逆転とか、勝負どころでの緩着で敗北のケースが少なくない。寝言も大きくなるうというもの。

投了した後で、「この定石はこうで…」と教訓を、爺さん、孫ほどの少年から戴いたりしている。

とあれ芸は身を助くか、囲碁のお陰でヨーロッパ中に知人が。マジヤール囲碁協会の会長、スロベニアの理容師氏は別格として、ミラノで出会ったチエコ女流ナンバー1の姉は今伸び盛りの長女の薫陶に夢中。セグド夏季合宿の帰り二晩泊まって徹夜で打ったドイツ人技師二段には、今年ジェールで対戦。日本人ではミラノに住む中部棋院所属のS二段、ポーランド定住の

H四段とは何度か顔を合す。ニース滞在七年の定年退職者氏とは、タトラ高原で何局か囲んだ。国内でも、衣料店を営む中国成都からの四段が来訪、対岸バダチヨニー近くの仙人風の老人にも誘って貰っている。

この爺さん、あきれた話だが、二年間もマジヤールでこ厄介になりながら、言葉は挨拶だけ。マリイバーでは親切に話しかけた現地の人が、業を煮やして、「お前は英語も出来ないでハンガリーに住むというが、マジヤール語は大丈夫なんだろうな」ときた。

「ジャパニーズオンリー」の答えに一瞬、問を置いて、

「おお、お前こそ、真の、インターナショナルリスト」。

周囲は肯定半ばの大爆笑。が、爺さん、もう二年も過れば欧州も、観るべき程は観つて、次はアジアの存念だから澄したものの。爺さん、「これで言葉を覚えては、マジヤールから抜けられなくなる」と、何処かで恐れてもいる。

とあれ、人生万事塞翁が馬、来春には定年を迎えてバダチヨニーで葡萄

作りの、碁も知りテニスも上手いKさんも来る。全欧選手権戦は、一度は訪ねようと思っていた、ベルリン。北海道流のニシン漬けも本場以上に仕上がりが、裏の畑で育てた大根での沢庵漬も旨い。日本種ゴボウが砂地でも重粘土地でも健闘してくれることも判った。マジヤール生活で画竜点睛を欠くのは、「ラインを遡ってヨーロッパ中央運河を渡り、ドナウに入った北海の鮭の、ドナ・カニヤールで回遊する養殖事業が、まだ成功していないこと。EUのためにも残念」、だそうだ。

爺さんの楽しみは、当分尽きそうにもない。(九九・一一・二〇記)

五 歳の挑戦

盛田 常夫

運動会：八百米新設の事情

日本人補習校と日本人会の運動会が始まったのは、十年ほど前。ブダベストの運動会はゲーム性が強いから関心はなかったが、一九九七年から八百米走が設けられたので参加することにした。後から分かったのだが、この発案はさくら銀行の丸中さんだった。本人は走れるような体格ではないし、走る気もなかったようだが、従来の年齢別五百米の短距離走では、オジさんたちが頑張りすぎて怪我をする確率が高いから、距離を延ばして無謀な意欲を削いだらどうかということだったらしい。

しかし、陸上競技のなかで、八百米とか一五〇米という中距離は競技としては一番きつい。これは競技を経験したものでなければ分からないだろう。というのは、中距離では耐久力とスピードという相反する能力が

両方とも要求されるので、苦しさが他の競技と違うのだ。

自分が走るわけではないから、その辺のことは丸中さんにはどうでも良かったのだろう。確かに、普段運動をしていない人が八百米を走り切るのはたいへんだから、最初から全力を出すはずはないし、力尽きれば自然と途中で諦めるから、五百米走のように急に力を入れすぎてアキレス腱を切ったり、ゴールに向かってダイビングするなどということはない。だから怪我の回避にはなる。

大使館の城島さんが八百米新設の情報をくれた。彼がこの種目で山形の中学チャンピオンだったという話もその時に聞いた。私も中学二年の夏に腰を痛めて陸上競技を諦めるまでは、一五〇米の市のナンバーワンだったから、一緒に競走しようかということになった。それにしても、城島さんの八百米の中学記録は二分九秒だという。これは速い。私は一五〇秒や二〇〇秒をやっていたから、八百米の記録はないが、調子の良い時でもこの

記録は出せなかっただろう。

いずれにしても、それは昔の話。運動能力は、日頃の鍛錬がなければ、限りなく退化する。いくら城島さんでもそれは二年も前の話。練習してなければ三分を切るのも難しいのが八百米。もつとも、私のは四年も前の話だ。

それは完敗で終わった

一九九一年に膝を痛めてから、定期的に水が溜まるようになり、この頃はリハビリ的なトレーニングをやっていた。毎日プールで一五〇米ほど泳ぎ、マルギット島で週に三四回一五〇米のタイムをとっていたが、運動会に備えて急遽、練習を八割に切り替えた。といっても、マルギット島のブダ側を見る道路に記された百米ごとのポイントを辿ってタイムを測るだけ。

ピアノもスポーツもトレーニングをしていないと水準を維持できない。昔の記録は参考にならない。サラリーマンが競う競技なら、二分四秒を切

れば、文句無しに優勝だろうと踏んでいた。これだつて、百米平均二秒だから、練習なしで出せる記録ではない。

丁度、五才の誕生日を迎える一日前が運動会だった。城島さんはほとんど練習していないという。それなら、他にライバルはいないだろうから、最初に飛ばして早く密集を離れ、後は流してゴールできるだろうと考えた。案の定、最初の二米をかなり速いペースで飛ばしたら、後続のざわめきが消えてしまった。もう大丈夫、後は流そうと思つた途端、もの凄い息づかいが迫ってきた。城島さんが慌てて追っかけて来たのかと思いきや、なんと秋山さんだった。その時はまだ、秋山さんの激しい息づかいなら長続きはしないはず。前に出して様子を見たところが、スピードが落ちない。あれ、という間にスイスイ行くではないか。

秋山さんは四米をほぼ一分八秒で通過。私は二秒ほど遅れたが、このまま追いかけては潰れると諦めた。秋山さんは二分二三秒のぶつちぎり

優勝。私は一秒遅れの二位だった。ちなみに、三位が恒平、四位が城島さん。

秋山さんは運動神経の塊

ここ一年、マルギット島でたまに八米のタイムを測つたことはあるが、二分三四秒より速いタイムで走つた記憶はない。二分三秒を切り、それも一秒の前半で走る人がいるなど、予想もしていなかった。聞けば、秋山さんはフルマラソンで三時間を切るし、富士山頂マラソンにも参加した強者だという。毎日、大使館と家を走つて通勤する筋金入りと聞き、勝てないはずだと納得。

それにしても、秋山さんの運動神経は抜群だ。ソフトボールの守備をみても、その勘の良さや足の速さが分かる。一緒にスキーにも行つたが、急斜面を綺麗なパラレルで降りる姿には感心した。テニスも粘っこい。もつと体が大きければ、プロのスポーツ選手になつていたことは間違いない。残念なこと、パワーが必要とされる競技には

向いていない。しかし、明らかに長距離走向きの体だし、スキー競技も今はパワーの時代だが、ジャンプなどは体が軽い方が良いと言うから、環境が整つていれば、脚力を活かして複合競技の選手にもなれただろう。彼の運動神経なら、恐怖のジャンプを物にするだろう。モーグルなどにも向いているし、トライアスロンなどは今からでも十分に参入可能だろう。

しかし、何時までも秋山さんを誉めてばかりいられない。しっかりトレーニングすれば、少しは秋山さんと競り合えるのではないか。とはいえ、もう筋肉が若くないから、基礎から身体を鍛え直さないと、少々のトレーニングではとても追いつかないだろうなどと考え始めた。

持つべきものはライバル。秋山さんに完敗しなければ、考えつかなくつたようなトレーニングを開始した。

歳をとつても基礎体力は伸びる

この運動会の話「ドナウ通信」に書き、東京の知人に送つた。後日、日

本食品の小包が届き、何の注釈もなしに読売新聞が同封してあった。何か訳ありだろうと、自分に関係していそうな記事を探した。一つ見つかった。

「八 歳でマスターズチャンピオン。鍛錬の仕方で運動能力は五 や六を過ぎてても向上させることができる」という記事だった。

要するに、人は日常的に潜在能力の何分の一しか発揮していないが、トレーニング次第で、潜在能力を顕在化させることができる。それは五 や六を過ぎてても可能だという。別様に解釈すれば、人は怠惰に限りなく適応するから、逆に怠惰に陥らないようにすれば、能力が向上するということだ。それは肉体的な能力だけでなく、精神的な能力についても言えるのだろう。

数年前に一念発起してバタフライを覚え、二 米個人メドレーの一級標準記録を目指していたから、ここは性根を据えて、基礎トレーニングに精を出すことに決めた。個人メドレーでは、最初の五 米のバタフライを終えて、なおかつ三分の二の余力をもって

いないと、残りの一五 米を泳ぎ切る事ができない。それには、フォームの改良も必要だが、基礎的な体力の向上は不可欠だ。

一月にもなれば、夕方四時を過ぎるともう暗くて走れないし、走れても、寒いから却って筋肉を痛めるだろう等々いろいろ考えた挙げ句、階段の昇降トレーニングを思いついた。中学時代に階段の昇降練習が脚力の向上に役立つたという記憶がよみがえった。ピルの非常階段は建物の内部にあり、空気は激んでいるが、暖かいし、人の迷惑にもならない。部屋で着替えれば、時間的にも無駄がない。これで決まった。

アストリア広場のオフィスビルは地下二階、地上九階である。正味一階分を五往復することに決めた。階段数にしてほぼ一九 段、往復で三八段、五往復で一九 段ということになる。

最初の二ヶ月、とにかく夢中で走った。目標はタイム。もちろん、最初から階段を走れた訳ではない。初めの一

週間はとにかく五回を完走することだった。ゆっくり歩いて、往復三分を目標にした。それに慣れると、途中の休憩無しで、一五分で往復するようにした。

その要領が分かってから、階段を走り始め、タイムを少しずつ詰めた。ほぼ二ヶ月で、上り下りとも一段ずつ走るやり方で、五往復を一分三 秒まで縮めた。一段ずつ昇っていたのではこれ以上のタイムは望めないから、昇りは二段飛びにすることにし、再びタイムを縮めて見ることにした。三カ月目に一分二三秒で五往復できるまでになったが、面白いことにこの記録は以後一年以上、更新することができなかった。

後述するように、今はもう休み無しに五往復頑張るといいうやり方は止めた。心臓に悪いし、あまり効率が良くないことが分かったからだ。

膝に溜まった水は水泳で抜ける

五ヶ月目になる一九九八年三月まで、何度となく、膝から上の筋肉がパ

ンパンに張ったり、膝に水が溜まった
りした。その度に一週間ほどの休みが
入り、再び鍛え直すという繰り返した
った。しかし、それで意外なことを発
見した。

一九九一年の一年間に六回も膝の
水を抜く治療を受けた経験があるの
だが、膝に溜まった水はかなりの量で
も、水泳で抜けることが分かった。も
ちろん、徐々に筋繊維に吸収される訳
だが、その原理は次の通りだ。水が溜
まると膝を曲げられない。だから、ク
ロールやバタフライのように膝を曲
げない泳ぎをする。膝に負担がかか
らないように足を動かすことで、膝の関
節が緩み、溜まった水が吸収される。
暖かい温泉に浸かると交互に繰
り返すことで、症状が見る見る改善す
る。これは大きな発見だった。

膝に水が溜まれば、整形外科医は安
静を指示するだろう。水がどんどん増
えて痛みを我慢できない場合はまず
水を抜くしかないが、抜いた後や、あ
るいは我慢できる症状の場合には、水
に浸かって動かして膝の関節を柔軟

にしてやることが症状を改善する。運
動経験のない医者に説明しても分か
らないだろう。こういうことは経験し
た者の方が良く分かる。

水泳療法はまた、泳ぎを矯正する副
産物を与えてくれる。無駄な膝の曲が
りを自然に抑えるので、フォームの矯
正になるという訳だ。

階段昇降とランは別物

九八年の春を迎え、何ヶ月振りか
外を走って見た。これだけ基礎トレ
ニングをしたのだから、さぞかし記録
も伸びるだろうと勇んで走ってみた。
ところが、いくら頑張ってもほとんど
変化が見られない。階段を昇降する運
動、つまり垂直方向の運動と、平地を
走る水平方向の運動では負荷の掛か
り方がまったく違うことが分かった。
水平方向の運動では体重の負荷がな
りが強い。だから、逆に、その過重が
膝が悪くない足にかかり、太股を痛め
てしまった。不思議なことに、走ると
違和感のある太股の筋肉だが、階段の
昇降では何の違和感も感じない。使う

筋肉が明らかに違うのだ。

そういえば、トライアスロンで、水
泳の他に、自転車と長距離走という似
たような陸の競技がある。自転車は長
距離走のどちらか良いのではない
かと思うが、自転車は垂直運動で体重
の負荷がかからず、ランは水平運動で
直接に負荷がかかる。確かに運動の種
類が違うのだ。

経験的に言うと、距離の観点から見
て、水泳は陸上競走の五倍程度の強度
がある。だから、オリンピック競技の
トライアスロンのランは一キロで、
水泳は一・五キロとほぼ六倍強に距離
が設定されている。自転車競技はやつ
たことがないから経験則で言えない
が、オリンピック距離が四キロと決
められているから、負荷はランの四分
の一と想定されているのだろう。

私も水泳とランのデュアトロンな
ら競技に出ても良いと思うが、自転車
まで練習する気になれない。そこまで
やると、他のことに時間が割けなくな
る。階段昇降のトレーニングにかかる
時間は準備を含めてもせいぜい三

分だから、マルギット島に出かけて走る練習時間の三分の一程度の時間で済む。スイミングだって、一時間もあればトレーニングは終わる。まだ他の趣味に使える時間は十分に残っている。

記録がでない

水泳と階段昇降や、マルギット島のランニングで基礎体力は確実に向上した。とくに呼吸器の能力が格段に向上した。平常脈拍は六〇を切っているし、激しい運動の後の脈の戻りもきわめて速い。お陰で、テニスでも息切れがしなくなった。

ところが、八メートルのタイムをとつても、ちつとも良くなならない。歯を食いしばって走っても二分三秒の壁が破れない。これだけきついトレーニングを八カ月もやって、ほんの二秒しかタイムを上げられない。これにはがっかりした。やはり歳には勝てないのかと。中学や高校時代にこれだけトレーニングしていれば、全国でも上位に入っていただろうと思う

が。

そうこう焦っているうちに、夏の花粉アレルギーに、気管支炎を併発して、九八年の八月は見学だけ。秋山さんに楽勝させることになった。何とも不甲斐ない。この時は天候が悪く、優勝記録は二分二八秒前後で、二位の城島さんとの距離はかなり詰まっていたから、走れていれば競ったレースにはなっていただろう。

トレーニング方法を変える

年明けの九九年からトレーニング方式を変えた。がむしゃらに五往復するのではなく、メリハリを付けることにした。階段昇降はストレッチ風に、それも三〜四回で止め、その代わり上がりの一〜二回を全力で昇ることにした。瞬発力を付ける筋肉を養うためである。また、それまで冬場は走ることを止めていたが、ランニング・マシーンで走り込むことにした。マシンは道路と違い、弾力があって膝や筋肉を痛めないし、天候条件に左右されない。

春になっても、外に出ずにマシーンで走り続けた。というのは、五月のマルギット島はカナダ樹木の綿埃が雪のように舞い、六月の夕方になると物凄い蚊柱が立ち、とても快適なランとはいかないからだ。

痛めている太股を強化し、硬直化し易い臍(すね)の筋肉を和らげるためには、マシーンで走り込む方が良くことが分かった。ただ、マシンの欠点は、スピードの上限があること。通常のタイプでは、時速一六キロ(百米トル二二・五秒)が最高速度で、このスピードだと八メートルが三分ちょうどペース。マシーンではスピード練習ができない。

それでもマシーンだけを使い、結局、一九九九年一年を通して、マルギット島で走ったのはたったの一日だけだった。八メートルのタイムをとる前に、ウォームアップとスピード練習を兼ねて百米ダッシュを十回ほど繰り返した。最初にタイムをとったのが六月末で、この時いきなり二分三秒が出た。前の年に記録が伸びなかった

のが不思議なほどに、最初の計測であつてなく好記録が出た。余力が感じられたので、もつと行けると思い、二日後にタイムをとった。なんと時計は二分二六秒台で止まっている。あれだけ苦しんでいた三秒の壁が、なんともあつさり破れた。記録が出る時はこういうものなのだ。

この一年半の階段昇降記録は血圧や脈拍データとともにエクセルファイルになっていく。このデータを見ると、この時期には一九段の階段を四一〜二秒で昇っており、運動会直前には三八秒台まで伸びている。八ヶ月前には一分近くかかっていたから、瞬発力が格段に向上したのだ。

八月中旬に夏の花粉アレルギーを避けるために、スペインの海岸へ行ったのも良かった。一週間の滞在だったが、城島さんと四回ほど二キロのピロイドのような芝生の回廊を往復した。往路でウォームアップし、復路はタイムをとった。快適な環境で競走し、お互いに久しぶりに中距離競技の気分を満喫できた。

どういふ風の吹き廻しか、スペインから戻ってきたその夜に秋山さんが尋ねて来た。マッサージ師に身をゆだねる私にスペインのことを根掘り葉掘り聞く。「マッサージが必要だということとは、ジョージと一緒に隠れトレニングをしてきたのではないか」と。彼はその事実を確認すると、何とスペインへの一人旅を中止してしまつた。

雪辱作戦

一九九九年の運動会は秋山さんと走れる最後のチャンス。ここで雪辱しておかないと、一生チャンスがない。作戦は決まっていた。前半は自重し、最後の二五米で一挙にスパート。秋山さんに勝つ方法はこれしかない。秋山さんは基本的に長距離選手だから、コンスタントにタイムを刻むことはできるが、スピードの大きな変化には弱いはず。スピードの変化には筋力が物を言う。その筋力だけは絶対に負けないという確信があつた。

とは言っても、前半が速すぎると後

半のスパートの余力は残っていないだろうし、後半のスパートが早すぎると、最後に失速するリスクがある。ここが中距離レースの難しさであり、面白さなのだ。

レースは秋山さんが最初から引つ張つてくれたので、組立は簡単だった。これで作戦通りに行けるからだ。四

米の途中タイムは一分九秒前後。けつして遅いタイムではないが十分に余力があつたので、これで勝つたと思つた。後は仕掛けるポイントだけ。八

米では、四米を過ぎてからの百米と最後の百米が一番きつい。実際に、第一コーナー終わりの五米付近で少し距離が空いたが、気合いを入れ直し、予定通りバックストレートに入つたところで間合いを詰め、一挙にスパートした。目測で残り二米強の地点。

中途半端なスパートでは付いて来られない。だから、いったんスパートしたら、絶対に付いて来れない瞬間スピードを維持しなければならぬ。これには百パーセントの自信があつた。二

百段近い階段を一挙に上るイメージで良いからだ。

完勝とは言わないが、快勝と言えるだろう。審判席のタイムは二分二秒。百米平均一七・五秒、時速二一・六キロのスピードである。ほぼ二カ月の間に一秒も縮めた。ドーピングしてもこれだけ縮めることはできない。二年近い基礎トレーニングが結実したということだろう。

秋山さんがいなくなれば、レースを組み立てる面白みがなくなる。後は記録をどこまで伸ばせるかだけだ。二分一五秒前後までそれほど難しくない気はするが、それからはさらに練習方法を变えないと無理だろう。ここらまで来ると、一秒、二秒単位でしか記録を伸ばせないが、この記録を維持できれば、六歳位でマスターズ陸上でも結構闘えるだろう。それでも競技を目指したトレーニングはしない。すべての時間をそれにつき込まなければならぬ。

スポーツの美学

スパートが最後の二百米前というのは理由がある。最後まで競って二年前の完敗の雪辱にならない。文句なしに勝つには、バックストレートでスピードの違いを見せつける以外にない。レースの組立てにしたがってそれを実行すること、それが競い合う者の意地で、美学なのだ。

中田が素晴らしいMFなのは、球を受ける前に、パスを出す方向と、パスを出した後の自分の動きを瞬時にイメージしてあるからだろう。ゲームを組み立てるとはこういうことだろう。それには構想力と、常に全体に目を配る視野の広さが必要だ。パスを受けてから、パスを出す相手を探すようでは、一流選手になれない。スキーのスラロームでもジャンプでも、コースのイメージを何度となく頭に焼き付けてレースを組み立てる。イメージに欠け、レースを構想できない選手は、絶対に勝てない。一流のスポーツ選手はみな、構想力と自分なりの美学をもっているはずだ。

テニスでも水泳でも、私は美しさを追求する。綺麗なフォームで力強く、速くという理想を求める。だから、自分流の汚いテニスを矯正しようというハンガリー人や、訳の分からないようなフォームで泳いでいる人を見ると、どうして直そうとしないのかと思う。それは自分についても同じ。思い通りに打てない、泳げないと、がっかりくる。その悪い記憶を消すために休む。

プールで三分も一時間もちゃんと水に浮いている人や、順番待ちの人がいるのにランニングマシーンで三分も歩いていない人には腹が立つ。負荷のかけられない運動は、いくらやっても鍛えたことにならない。もっと力を入れてやれば、鍛えられるし、早く終わるだろうが。

綺麗なフォームは運動の合理性にかなっているから。だから、綺麗なフォームに出会ったら、良く観察して、真似ることだ。真似ることも能力の一つ。進歩は模倣から始まる。

フォームを矯正するポイントは

ズムと呼吸法。平泳ぎは二拍子。一拍子では前に進まない。バタフライは一ストロークに二ビートの三拍子。クロールは片手一ストロークに三ビート乗せる三拍子が基本だが、二ビートでも一ビートでも良い。中・長距離走は二拍の吸い込みと、二拍の吐き出しの四拍子。正しいリズムと呼吸法はすべての運動の基本だ。

水泳でも陸上でも、短距離と長距離では泳ぎ方や走り方が違う。水泳の短距離はピッチ、長距離は大きな泳ぎをする。逆に、陸上の短距離は大きな走りで、長距離はピッチ走法になる。それぞれのスポーツには固有の理屈と進歩の論理がある。これを無視して進歩はない。

終わりに

人は自分史に照らして、今を活かす趣味や仕事に没頭する。たまたま今の私は、四年も前に腰を痛めて断念した競技の緊張感を、もう一度満喫したいという気持ちで、自分を駆り立てている。それを他人が理解するのは不可

能なこと。自分が納得すること十分だ。いろいろなことを試して、それぞれのスポーツや芸術のもつ深さを堪能すること十分だ。

今の城島さんに、走ることへの執着はない。ピアノの練習の方がはるかに重要なのだ。私は自分の能力の限界を知っているから、ピアノには深入りしない。その代わり、せめて鍛えた呼吸器と肺活量を利用して、ルドルフのアリアを歌いこなしたいと思う。

この歳になって改めて思うことは、人生、いくつ歳をとっても、自分から老けてはいけないということだ。鍛錬と努力で、いろいろな道は開けてくる。逆に、怠惰であれば、道は限りなく閉じられてくる。

掲示板

東京にあるスタインウエイBモデルを売ります。一年前に新品で購入したものです。問い合わせは編集部に。

一軒家貸します。

敷地250坪、居住空間250平方メートル。3階建て。トイレ3カ所、バスルーム2カ所。床暖房、冷房付き。改装済み。二千五百ドル。2区薔薇が丘。問い合わせは編集部へ。

編集室より

次号の締め切りは、三月中旬とさせていただきます。原稿は次の所へ。

TEL/FAX: 266-4967

e-mail: t-morita@hungary.net